

今年も盛大に原爆犠牲者を慰霊する平和記念式典が開催された。原爆が当初3個作られたことは周知の通りである。広島と長崎に投下する前の7月16日ニューメキシコ州アラモゴルドに投下されたのが1発目であった。が、実は米軍が人の居住する地域に核爆弾を落としたのは日本以外にもう一箇所ある。スペインの片田舎パロマレス集落がそれだ。

1966年1月、米軍の爆撃機B52と空中給油機が上空で衝突、B52が搭載する水爆4個のうち1個が海中に、3個が地上に落下。地上に落下した水爆のうち2個で起爆用の通常火薬が爆発、ウランとプルトニウムが飛散して2平方キロの土地が汚染された。米軍は1750トンの土を除去し、サウスカロライナ州のサヴァンナ川核施設に運んだ。その後もパロマレスの落下地点近くでは住民が農業を続けていたが、2004年にスペイン政府は2ヘクタールを買収、2006-08年に660ヘクタールを調査した結果、30ヘクタールで規制値以上（最大40倍）のプルトニウムを検出し、場所によっては深さ5mに達したため、41ヘクタールを鉄柵で囲った。しかし2011年現在でも、30ヘクタールの5万立方メートルに500gのプルトニウムが残るといふ。だが、スペイン政府は今に至るも「大気中の放射線値は国際基準より低く、住民の健康にも影響はない」などと述べ、積極的に観光客を誘致、別荘まで建てられているという。

何やらどこかで聞いたような話したが、こうしている間にも福島原発では汚染地下水の海中流出に加え、新たに高濃度汚染水の貯蔵タンクからの大量の水漏れが見つかったのを見て、思わず3000年前の聖書の言葉

「怠けていると天井が落ち、手をこまねいていると雨漏りがする。」伝道者の書10章18節

を思い出した。しかもこのたびは“死の雨漏り”である。にもかかわらず、原発再稼働ありきの大合唱だ。一体、日本人はいつになったら悔い改めるのだろうか。今はただ、キリストの復活の神学だけが頼りと信じる。それだけが汚染された土地の憂鬱を打ち払い、復活を保障するものだから。

2013-8-28



写真：パロマレスより引き揚げられた水爆。